シリーズ
かほく市の文化財 No.52

有形文化財 編　高松瓦（２）

今回は、かほく市史編さん事業で集めている市内の古写真から、高松瓦を作る姿やその風景を紹介します。また、No.４３で高松瓦の歴史について紹介していますので、参照してみて下さい。

江戸時代後期の中沼で始まった高松瓦づくりは、写真１の瓦を成型に使用したであろう台や、整形や調整に使用したであろう諸道具から、そもそもは手作りであったことが分かります。そして昭和３０年代頃を境に、写真２や写真３のように機械化が進み大量生産化していきました。また、昭和の風景として、夏栗、中沼、長柄町、二ツ屋あたりでは、写真４、写真５のような高松瓦を焼く工場の姿がみられました。

これら作業の様子や風景の写真は、すでにかほく市で見ることが出来ない貴重な当時の姿を伝えています。

写真１　瓦づくりの道具

写真２　機械で瓦の整形

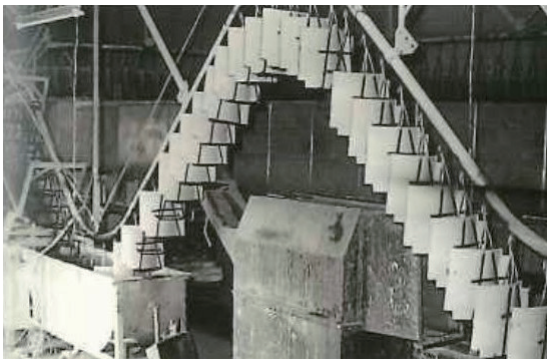
写真３　機械で施釉される瓦

写真４　市内の瓦工場

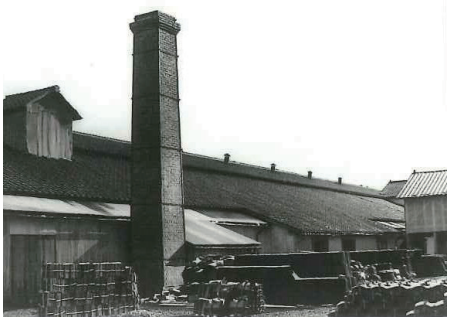
写真５　市内の瓦工場

当時は鬼瓦職人も二ツ屋や中沼におり、寺社仏閣に巨大な鬼瓦を納めていた。高松が大きな瓦生産地であったことがうかがえる。